


明石市社会福祉協議会の“あゆみ”

あかしの社会福祉 100号を記念して、明石市社会福祉協議会の歴史を振り返りました。

昭和26年 (1951) **「明石市社会福祉協議会」設立**

あかしししゃかいふくしきょうぎかい
明石市社会福祉協議会は「人々が幸福になること」を目標として事業を進める団体で1951年、設立されました。
(今の明石郵便局辺りに事務所を置く)



昭和38年 (1963) **「善意銀行」設置**

他人のためを思う気持ちを、労力や金品に変えて預け、必要とする人へ渡すしくみの「善意銀行」が明石市社会福祉協議会に設置されました。

昭和45年 (1970) **事務所が移転**

新設の現明石市庁舎議会議棟へ



昭和51年 (1976) **「世帯更生資金貸付事業」受託**

収入の少ない家庭に低い利率でお金を貸し出す事業がはじまりました。この事業は今も続いています。




「ボランティア連絡会」発足

各々で活動していたボランティアグループが結束し、6グループで発足しました。現在、ボランティア連絡会には99グループが所属しています。




昭和52年 (1977) **「ボランティアサンデースクール」開講**

新たなボランティアを増やすためスクールを開きました。今ではさまざまなボランティアを育てる講座を開いています。



昭和22年 (1947) **赤い羽根共同募金運動開始**

終戦後周もなく、復興の一助としてはじまりました。



昭和20年～

昭和30年～

昭和40年～

昭和62年 (1987) **「給食サービス」開始**

ボランティア手作りの給食が各地域で振舞われました。今の「ふれあい会食」の前身です。



昭和57年 (1982) **事務所が移転**

勤労福祉会館へ




昭和56年 (1981) **老人のためのおせち料理宅配「愛の宅配便事業」開始**

おじいちゃん、おばあちゃん元気？と見守りを目的に年末にはおせちが届けられました。今は、手作り小物と調理済み食品を届けています。



「社協あかし」発刊

現在も「あかしの社会福祉」として年4回発行しています。今回で発刊100回目を迎えました。



当時の明石地区コミセンへ (相生町)

事務所が移転



昭和60年～

平成元年 (1989) **「訪問入浴サービス」開始**

自宅での入浴をあきらめていた人達へのサービスとしてスタートし、後に介護保険サービスへ移行しました。「3年ぶりで気持ち良かった」との声も。



平成3年 (1991) **事務所が移転**

明石市立総合福祉センターへ



「登録ヘルパー派遣事業」受託


地域で生活する手助けが必要な高齢者宅にヘルパーが行き、お世話をする事業がはじまりました。



現在の事業所(二見町東二見)

平成4年 (1992) **「第1回 障害者大運動会」開催**


第1回は、二見中央公園で明石市の事業として開かれました。第17回より、明石市社会福祉協議会が運営しており、今年は10月20日に行われます。



第4回 中崎小開催の様子

「第1回全国ボランティアフェスティバル」開催

記念する第1回は延べ8万人を超えるボランティアが集まり、明石で開かれました。



平成6年 (1994) **「車いす福祉マップ作成」**

車いすの貸し出し場所がわかり、たくさんの人に利用してもらえるようになりました。

平成18年 (2006) **「ボランティアフェスタ」始まる**

ボランティア連絡会発足30周年を記念して行われました。当時は123グループが所属していました。

平成元年～

平成10年～ そして平成20年代へ

明石市社会福祉協議会の“いま”

～地域のみなさまとともに～

昭和26年に設立してから、地域のみなさまとともに67年の時を刻み、わずか数名からはじまった協議会も **職員総数 約180名** にまで増えました。

ここでは、“いま”も続く、活動の一部を紹介します。明石市社会福祉協議会は、これからも地域のみなさまとともに、地域福祉の推進に取り組みます。

ボランティアの輪 ～42年の歴史～



40周年記念



校区ボランティア交流会



愛の宅配便



第10回ボランティアフェスタ



1976年に発足した「ボランティア連絡会」は40周年を迎えたいまも活発な活動が続き、ますます輪が広がっています。

福祉の学び ～未来へのバトン～



親子手話教室



ボランティア養成講座



福祉学習

はじめは「ボランティアサンデースクール」から。未来の福祉を育む取り組みが今も続いています。

善意銀行 ～気持ちをつなぐ愛の銀行～

簡単無料 善意銀行の
窓口も窓口も開設しました。

明石市 善意銀行.net 検索

- 1 ホームページにアクセス!
- 2 アカウント作成
アカウント作成ページより、アカウント作成の手続きを行ってください。後日、事務局より登録完了メールが届きます。
- 3 ログイン
ログインページより、IDとパスワードを入力し、ログインしてください。
- 4 物品の選択
受取りを希望する物品をカートに入れ、必要事項（受取希望日時等）をフォームに入力し、注文を完了させてください。すぐに注文完了メールが届きます。
- 5 物品の受取
注文完了メールの内容に従い、明石市立総合福祉センターの2階へお越しください。
- 6 報告
お送りいただいたメッセージと物品写真を使用している様子を写した写真を事務局までお送りください。後日、ホームページに掲載いたします。

ご利用手順について

2016年から公募での助成がはじまり、2018年は新たにホームページを作成しました。

赤い羽根共同募金 ～じぶんの町を良くするしくみ～

P6~P7



2017年あかし赤い羽根共同募金フェア



毎年10月にはじまる赤い羽根共同募金。2016年に初めて「あかし赤い羽根共同募金フェア」を開催し、71年の歴史を持つ共同募金は、今も時代の流れに合わせて活動を続けています。

総合相談支援 ～福祉まるごと!～

P8~P9



地域でも、窓口でも!



高齢者・障害者の総合相談窓口 開設記念式

「基幹相談支援センター」と「後見支援センター」が開設され、昨年度までの地域包括支援センターは2018年度に「地域総合支援センター」として市内6か所に拡がりました!!
地域でも、窓口でも、様々な相談支援を行っています。

明石市立総合福祉センター ～障がい者も高齢者も～



2017年障がい者交流運動会

障がいのある方や、高齢の方が利用できる「明石市立総合福祉センター」の指定管理を2008年から受け、プールや各種教室、障がい者の運動会も運営しています。

被災地支援 ～あなたを助きたい～

P10



2011年 気仙沼市



2014年 丹波市



2018年 倉敷市

大きな災害があれば、職員が復興のお手伝いをしたり、ボランティアを集めて現地で活動しています。

あかしのまちを良くするしくみ **赤い羽根共同募金**

【運動期間】2018年
10月1日▶12月31日

あかはね
ちゃん



2018年度募金目標額	23,873,000円
地域	5,131,000円
赤い羽根	15,742,000円
歳末たすけあい	3,000,000円



赤い羽根共同募金運動は、1947年（昭和22年）にその運動を開始し、当初は戦後復興の一助として、主に戦争の打撃を受けた福祉施設等に対し資金支援を行ってきました。その後時代が流れ社会情勢が大きく変化し、地域福祉の課題も複雑化・多様化する中で、現在も様々な福祉課題の解決に取り組む民間団体を支援する仕組みとして運動を継続しています。



もしもあなたが



赤い羽根共同募金
兵庫県共同募金

もしもあなたが、**100円募金**したら…
明石市内のあんなこと、こんなことに使われます!!

地域福祉活動の充実のために

～地域福祉活動や広報活動に～

- ボランティア活動を促進するため、養成講座の運営や、ボランティアフェスタの開催に。
- 市民の皆さまに福祉の情報を発信するため、広報紙「あかしの社会福祉」の発行、ホームページの運営に。
- 地区社会福祉協議会などが主体となって推進する地域福祉活動に。…ほか。

子どもたちのために

～福祉学習や施設設備の整備に～

- 小学生・中学生を対象として取り組まれる福祉学習に。
- 民間保育園（所）の、遊具や設備などの整備に。
- 施設・団体が実施する交流活動に。…ほか。

高齢の方のために

～居場所づくりや福祉機器のリサイクルに～

- 誰でも気軽に無料で車いすを利用できる貸出用車いす設置の活動や、その他福祉機器のリサイクル活動に。
- 地域でのつながりづくり推進のため、連合まちづくり協議会、ボランティア連絡会などの活動支援に。
- ひとり暮らし高齢者や、夫婦のみの高齢世帯の居場所である「サロン」の活動支援に。…ほか。

障がいのある方のために

～交流事業や相談しやすい環境づくりに～

- 障がいのある方が気軽に相談できるよう設置されている、身体障がい者相談員の活動支援に。
- 市内の障がい者支援施設や福祉団体が実施する、事業や地域のつながりづくりなどの活動に。
- 障がいのある方が、それぞれの親睦を深めるための交流活動に。…ほか。

課題を抱える方のために

～社会に復帰しやすい環境づくりに～

- 犯罪や非行を防止し、立ち直りを支える地域づくりを担う、明石市保護司会・明石市更生保護女性会の活動に。…ほか。

【問合せ】
社会福祉 兵庫県共同募金会
明石市共同募金委員会

〒673-0037
明石市貴崎1丁目5番13号
明石市立総合福祉センター内
☎:078-924-9105 FAX:078-924-9109



～総合相談支援室からのお知らせ～

地域総合支援センターより

地域総合支援センターでは、地域での出張相談会を開催しています。お気軽にご相談ください。

Table with 3 columns: 開催場所 (Venue), 開催日時 (Date/Time), お問い合わせ (Contact). Lists various community centers and their schedules.

明石市基幹相談支援センターより

明石市基幹相談支援センターが事務局を務める、明石市自立支援協議会くらし部会「ハートフルあかし」では、下記の通り、市民向けメンタルヘルス講座を開催します。

日時 10月24日(水) 14:00～16:00 (受付13:30～)
場所 市民ホール (明石市本町1丁目1-32 らぼす5階)
講師 奥平 智之 先生 (医療法人山口病院 精神科部長)
テーマ 食べてうつぬけ ～鉄欠乏女子(テケジョ)・子ども(テケコ)を救え!～
参加費 無料

ぜひご参加ください!



【問合せ】基幹相談支援センター ☎924-9155

相談援助実習報告 期間:8月中旬～9月中旬

実習生の受け入れを行いました!!



兵庫大学 生涯福祉学部 馬田 来実

実習を通して地域での必要なものは毎日変わるもので、その変化を知りました。地域の状況に合わせてお手伝いする内容を考えたり、新しい方法を見つけるなど、地域の人々が安心してより良く住める町作りを積極的に取り組む気持ちと行動が大事だということを受けました。



神戸学院大学 総合リハビリテーション学部 合本 愛彩

社会福祉協議会は、色々な人の相談を受け、生活を支えます。そのために、相手の話をよく聞き、支えるために必要なことを考え、伝えることの大切さを勉強して知りました。

実習では、特に伝えることの難しさを学びました。その中でも自分側の受け持ちを考えたから、話を分かりやすく伝えることが大事だと分かりました。また、会議の場で、正しく話を取り上げた事実を正しく伝えることが大切だと分かりました。そして、この「伝える」ということをするには、しっかり人の話を聞くことや周りを観察することが必要だと学びました。

関西福祉大学 社会福祉学部 南利 輝海

明石市後見支援センターより

<明石市後見支援センターの設立から現在までのあゆみ>

- 平成27年度 「明石市後見支援センターが開設」
●平成28年度 「法人後見の受任を開始」
●平成29年度 「後見基金」の設立



神戸新聞 (2018年3月16日掲載)



【問合せ】後見支援センター ☎924-9151

あかししりつそうごふくし
明石市立総合福祉センターからのお知らせ

ここにこ短歌教室を開催しました。

8月29日(水)、障がいのある方・高齢の方10名を対象に、日常の風景や心を感じたことを短歌で自由に表現する教室を開きました。

お互いの作品を通じてその心を知り、日本古来の文化に触れながら和やかな雰囲気の中、交流を図りました。各々が事前に2首の歌を詠み、講師による添削指導を受け、作品に深みが増すひと時となり、好評でした。



【問合せ】 明石市立総合福祉センター ☎918-5660

～被災地支援～

平成30年7月豪雨災害への支援として、職員派遣、ボランティア派遣、義援金の募集等、さまざまな活動に取り組んでいます。

ボランティア派遣

高校生からベテランまで、ボランティア35名を倉敷市真備町へ派遣しました。



8月6日 現地でのボランティア活動の様子

明石市社会福祉法人
連絡協議会

豪雨災害への支援のため、街頭募金や各施設における募金箱の設置による義援金の募集を行いました。募金総額 494,071円



7月25日 街頭募金の様子

【災害ボランティアについての問合せ】 地域福祉係 ☎924-9105

知って 見て 楽しい
ボランティアフェスタ

第11回 あかし
ボランティアフェスタ

11月17日 (土) 10:00~14:30
明石市立総合福祉センター ※雨天決行

舞台発表 福祉体験
バザー 喫茶コーナー 模擬店

他にも楽しいコーナーがたくさん!



【問合せ】 地域福祉係 ☎924-9105

※ボランティアをはじめたい人、支援を受けたい人も上記までご連絡ください。